

# くすね信

～養泉寺寺報 Vol. 8～



養泉寺本堂を舞台に繰り広げられた猿八座公演(2021年10月17日)

## 特集 ～今できることは何だろう?～

2021年10月17日。養泉寺本堂にて猿八座公演がありました。演者の息使いや汗まで感じられる様な至近距離。やっぱり生で観ると迫力が違います。

さて、寺泊ではここ数年、秋になるとつわぶき祭が開催されます。「祭」といっても、何か出店が軒を連ねたり、御輿が繰り出したりということはありません。この時期に綺麗に咲くつわぶきの花々を愛でながら、町散策を楽しんでみましょうよ、ということなのです。

考えてみれば、道端に咲く花に目をやることはなかなかありません。朝から晩まで忙しい毎日を繰り返す現代です。そんな中で生きているのですから、ある意味それは当たり前かも知れません。

しかし、様々なきっかけで私たちは立ち止まり、歩み直しを迫られることがあります。コロナウイルスもその一つですし、身内の死や、自分自身の病などもあるでしょう。しかし、そういうきっかけがあるお陰で、自分自身の在り方、生き方というものを改めて問い直すことができるのではないのでしょうか。

以前、私の恩師が教えてくれた話があります。

とても仲の良い学生時代からの友人がおられたそうなのですが、心臓の病から始まり、肝臓の癌、脳梗塞と病が広がり、余命1年と宣告されたのだそうです。お寺の住職をしておられたそうなのですが、さすがに余命宣告はショックだった様で、まだ子供が小さかったので目の前が真っ暗になったそうです。

ところが、その余命宣告をされた検査の帰り道に、いつもは何気なく歩いている道端に名前も知らない小さな白い花が咲いていたというのです。すると突然、「お前もそこで生きていたか！」という気持ちが湧いてきたといいます。花は、値段のついた花だけが花ではありません。道端に咲いた名前も知らない花でも、「お前も生きていたのか！」と、そんな心が自分に起こるとは思わなかった。これは、病のお陰だと、こう言っていたそうです。

酒の話や仕事の話はよくしたけれど、花の話をしたのはそれが最初で最後だったと、恩師は私に教えてくれました。

話をつわぶき祭に戻します。綺麗に咲くつわぶきの花々を愛でるということは、決して派手で大きな出来事ではありませんが、私たちに、普段目もくれないような広く深い世界を開いてくれるのではないのでしょうか。

「大悲無倦常照我」（正信偈）。「だいひ、ものうきことなく、つねにわれをてらしたまう」と読みます。私たちの目を見開いて下さる仏さまのはたらきは、常に私たちを照らしてくれているのです。



立ち止まらな  
いと見えてこ  
ないものがあ  
るわよね！



## KOTONOHA



### 養泉寺の掲示板の言葉（9月から2月まで）

- 9月 「日々、始まり」
- 10月 「名前は一番短いラブレター」
- 11月 「人間は人間によって人間に育つ」
- 12月 「一度きりの尊い道を 今、歩いている」
- 1月 「煩惱に正月休みなし」
- 2月 「止まない雨はないけど 待つのはつらいね」

生きてると辛くて苦しくてどうにもならないことがあります。また、そういう気持ちを分かってもらえない時は、一人ぼっちを感じて落ち込むこともあるでしょう。

しかし、どんなに孤独を感じ、寂しさに埋もれそうでも、あなたを大切に思ってくれる人が必ずいます。その証拠が名前です。

自分の名前を自分で考えてつけたという方は一人もいません。必ず誰かがあなたを思い、悩み、願いを込めてつけてくれたものがその名前なのです。

名前をつけてくれた人は、もう亡くなっているかも知れませんが、つけてくれた名前は私の人生にいつも寄り添い、私を励まし、私を叱り、私を導いてくれる道標です。

「名前は一番短いラブレターだ」というあるテレビCMの言葉を元に、10月の掲示板は書かせていただきました。毎月変わる掲示板の言葉に、今年も是非注目して下さいね！

# お寺の裏側 —URATERA—

もっと知ってほしいお寺の情報や、知っているようで知らない仏事の豆知識などを紹介します！

## 寺の宝、過去帳に迫る！！



—過去帳って何？

—養泉寺で葬儀を出した方の法名、御命日、屋号、地域などを記録した帳面です。養泉寺の過去帳は、天和3年（1683）から記録が始まり、現在12冊目です。

—なぜ宝なの？

—役所では辿り切れない家の歴史を辿ることができます。また過去帳があるお陰で年忌を知ることができます。もう10年ほど経つと、350回忌が出ます。

—見ることはできるの？

—直接お見せすることはできませんが、頼まれて調べることはあります。

—誰が記録するの？

—基本的には住職が記録します。大切な仕事の一つです。

—どこで保管しているの？

—お経蔵（下写真）です。

—他にどんなことが書いてあるの？

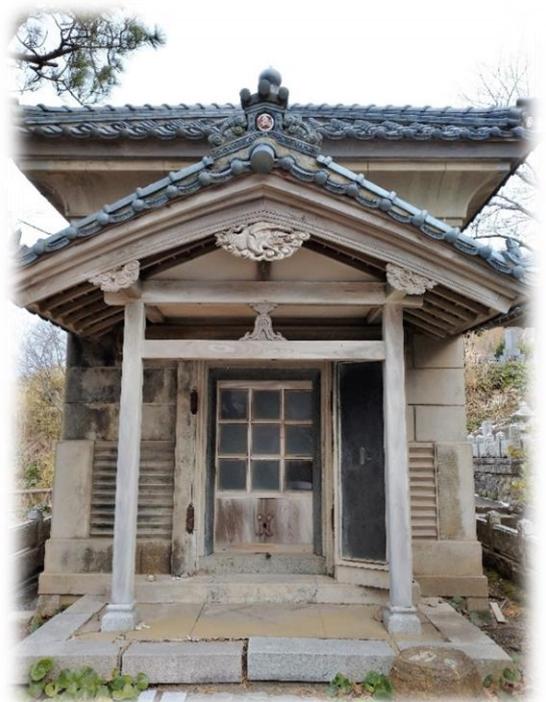
—地域であった天災、寺に寄進していただいた記録、大きな法要の次第、寺の家族の状況なども書いてあります。その時その時の住職が、後の住職へと大切なメッセージを残しています。

—これからの課題は？

—過去帳は紙なので、火災から守るということが一番です。さらに、データ化が課題です。膨大なため、相当な労力を要するでしょうが、記録を守るためには検討が必要です。



お経蔵のかぎ。  
面白い形をしているね！！



## あなたにインタビュー ～斉藤 恵子～

毎月、養泉寺の法語印をお受けしに来て下さる斉藤さん。仏さまに手を合わせ、寺族との会話も楽しみにされているという斉藤さんにお話を伺いました！！



倉：御朱印集めをするようになったきっかけは何ですか？

斉：最初は「御朱印」という意味も分かりませんでした。でも会社のつながりで御朱印を知り、御朱印帳と一緒に手に入れて集め始めたのがきっかけです。最初は越後八十八ヶ所を全部回って、その後越後三十三観音を回りました。

倉：御朱印の魅力・楽しさはどんなところですか？

斉：まずは文字の多様性ですね。そしていろいろなお寺や神社の人たちやそれぞれの地域の方と話し、関わることで、自分が活性化されるような気持ちになれるところですかね。浄土真宗には御朱印がないということもその中で知りました。

倉：養泉寺は浄土真宗なので御朱印はないですが、教えの言葉を書かせていただく「法語印」として受け付けています。どこで知られたのですか？

斉：インスタグラムをやっていて、フォロワーさんからの情報で知り、行ってみようかと思いました。最近凝った絵入りのものや消しゴムハンコを使

ったものなど、進化してきましたよね。

倉：養泉寺は毎月、山門掲示板の言葉が変わり、それを法語印にしているんですが、どうですか？

斉：とても希少ですよ。あと私が思うことは、こうして実際に来てお参りをして、お話をしたり日々変わる景色を楽しんだりすることが大切だと思います。

倉：ありがとうございます。

斉：私の住んでいるところは雪がすごいんですが、こっちに來たら全然ないですね！そういうのが分かるのもお参りしてこそだと思います。

倉：これからも法語印を、お寺へ親しんでもらうためのきっかけとしてやっていきたいのですが、何か期待することはありますか？

斉：細く長くやってもらいたいですね。こうやってお寺へ来れば子どもさんの声も聞こえますし（笑）（←子どもたちの走り回る声）

倉：法語印も大事ですが、そこにいる人や環境に触れてもらうことも大事だなと思っています。

斉：そうですね。できれば全く顔も知らないで郵送か何かの方法で法語印だけもらうというよりは人や環境も含めてご縁だと思いますし、それを感じる方がいいですよ。そのために私は来ています。

倉：法語印や御朱印をきっかけにして、新しい出会いが生まれることも大事ですよ。今までご縁が作れなかった方もこうしてご縁が作れているのですからね（笑）

斉：これからも楽しみにしています！

## 教えて！！ Q & A コーナー

御門徒さんからいただいた疑問や質問にお答えします！ 今回は・・・

Q 遺影は仏壇の中に入れておいていいものですか？（多くの方からいただく質問です）

A 良いか悪いかは置いておいて、本来は入れておく必要のないものです。なぜなら、お内仏（浄土真宗ではお仏壇とはいいません）の内側は、お浄土の世界を表しているからです。

遺影は、亡くなられた方の生前の姿を写したものです。亡くなられた方はお浄土に生まれ、仏となって私たちを導くはたらきとされるのですから、お浄土の世界に写真は必要ないのです。もっと言えば、ずっとお供えしてあるお供物や、亡くなった方の遺品なども本来はお内仏の中には入れておく必要はありません。理由は写真のそれと一緒にです。

ただ、誤解しないでいただきたいのですが、写真が大切ではないとか、ずさんに扱っていいとかということではありません。引き出しにしまっておくとか、別の場所に飾っておくなどして、大切に扱きましょう。

また、人によっては写真を見て亡き人を思い出したいという気持ちもおありでしょう。本来の正しさを示し説明しながらも、その方の気持ちも大切にしていける。お内仏の話になった時には、そんなことを意識していますので、全てのお内仏を「正解」に直しているわけではありません。

ともかく、お浄土の世界を表しているお内仏に向かって手を合わせる生活が何より大切です。そうすればこそ、新しい疑問も湧いてくるでしょう。また何でも聞いて下さいね！



# PHOTO GALLERY

10月3日  
養泉寺コンサート 2021



のほほんとした雰囲気  
ば〜かいかつたてえ〜!

10月17日 猿八座公演



二公演、おっと歌いっぱなし!  
どんなのどをしてるんだろう!

プロの人形浄瑠璃って  
迫力あるもんらねえ〜!!



10月27日、28日 報恩講



やっぱり手作りのお斎は  
うんめえわあ〜！  
涙が出るてえ〜！



10月23日、11月13日  
養泉寺 おそうじ隊

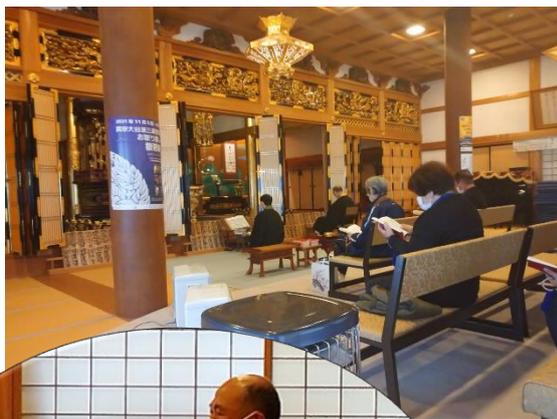
すみません、写真が撮れませんでした(泣) 和田さん(法崎)、中澤さん(湊町)、能登さん(上荒町)、能登さん(白岩)、本間さん親子(境江)、渡辺材木店さん(国上)、ご協力ありがとうございました!

11月 寺泊観光協会 寺めぐり



筆ペン使って  
奥が深いって  
だねえ〜

11月28日 法話会



皆さんに励まされましたてえ〜!

1月28日 初お講



皆で飲んで歌える  
日は、いつになる  
んだろっか…。



# 法話

(2021年 報恩講)

**【講師】 渡邊 智龍 師**  
**【講題】 正定聚の人生**



皆さんおはようございます。ご案内いただきました、新潟市南区、恩長寺の住職、渡邊智龍と申します。昨年も今年同様、皆さん顔半分にはマスクを付けていました。「来年は多分大丈夫だろうな…」と思っていたんですけども、なかなかウイルスというのは難しいものですね。世界中の学者の方々がいろいろと試行錯誤しても、それに抵抗できるワクチンや飲み薬が開発されないものだなあと思いながら、日々生活させてもらっていますけれども、生活というのはなかなか待ってくれないものでございまして、次々に進んでいくものだなあとということを、実感させてもらっているところです。

「四十八願」って聞いたことありますか。四十八の願いというのは、『大無量寿経』というお経に書かれております。その冒頭は必ず「設我得佛」という言葉から始まります。「もしも私が仏になる時」という意味でございまして。「私が仏になる」とは、「私があなたにとって一番必要な確かなものとなり、私があなたをしっかりと抱きしめてやろう」という仏さまの願いです。日々の生活ですと、お子さんやお孫さんが生まれた時に、「この子を守ってやろう」という意識で皆さん抱き寄せますよね。仏さまも同じ様に私たちを抱きしめてくれるんですけれども、この如来の願いにあうことによって、私の人生は確かな人生になるんです。どの様なことに出会い、どの様なことになろうとも、慌てることのない、騒ぐことのない人生になるのです。

しかし皆さんどうでしょうか。慌てますよね。騒ぎますよね。私なんて日々慌て騒いでいますよ。先日もちょっと用があつてコンビニに寄ったんです。車から降りて入ろうと思った瞬間に「あっ!」と気付いたんですよ。マスクをしていない。急いで車に戻ってマスクをして入って行きました。これは一般的な世間のもんですけれども、生きている時にはいついかなる意味での「慌てる人生」「騒いでしまう人生」があるのではないかと思います。

『歎異抄』「第九条」にこのように書いてあります。「なごりおしくおもえども、娑婆の縁つきて、ちからなくしておわるときに、かの土へはまいるべきなり」。生老病死の人生の中で、死を迎える時はやっぱり名残惜しいですよ。皆さんはまだ、自分が死ぬということを棚の上に乗せていませんか。いや、私もそうですよ。だけれども、生身の私たちですから、いつどうなるか分からないですよ。だからこそ、浄土が定まっていれば、しっかりと歩むことができる。確かな人生が開けてくる。それがお念仏、南無阿彌陀仏の教えです。

よく昔から、「救う」とか「救われる」といいますけれども、皆さんは実感が湧きますか。なかなか湧かないですよ。私もそうなんです。自分でこうやってお話をしながら、救うとか救われるってどういう感覚なんだろうと思っておりましたら、ようやく私の胸にすっと入ってきたのが、「浄土に生まれることができるんだ」、という感覚です。最近ようやく得ることができたんですよ。「生まれる」ということなんだな、という生活になってきたんです。

人生を歩んでいく中で、間違いを犯したいという人は一人もいないですよ。可能ならば間違いのない人生を生

き抜きたいと思っております。しかし、私たちはどのような状況に出会っても、常に落ち着いて対応できるだけの冷静さをなかなか持ち合わせていませんよね。状況によっては何をしてしまうか分からない、それが「私」ですよ。

同じく『歎異抄』「第十三条」には、この様なことも書かれています。「害せじとおもうとも、百人千人をころすこともあるべし」。例を挙げるならば、戦争やテロというのはまさにそれですよ。これは状況下で、自分たちの身を守るためにしてしまった行為、これは反省しなければいけないですけれども、状況さえ整ってしまえばそのようなこともしてしまうかも知れない。他にも、自分の目の前で大切な人や、子どもやお孫さんが傷つけられそうになれば、当然私たちは助けますよね。助けた瞬間に相手を傷つけたり殺めたりしてしまうかも知れない。我々というのは、状況が整えばそういうことをしてしまうのです。

これも『歎異抄』「第十三条」に出てくる言葉ですが、「さるべき業縁のもよおせば、いかなるふるまいもすべし」、という有名な一節があります。先ほども申した通り、そういう縁が来てしまえば、どんな振る舞いもしてしまう、誰もがその様なことを起こしかねない、その可能性を秘めているということですよ。人間の罪業の重さを感じさせてくれる大切な言葉ですよ。

この言葉で思い出す事件なんですけれども、もう10年前ぐらいだと思うんですけれども、50代の息子さんが80代の母親を殺めてしまった、という事件がありました。息子さんは、母親の介護のために仕事を辞めて、献身的に介護していたんです。けれども、当然仕事を辞めたので、経済的な事情もあると思いますし、先行きの不安もあったと思いますし、要するに疲れてしまったんです。たまたま今のこの世の中の環境によって現れた問題です。特にこの問題に関して大きいのが、独身ということです。当然この息子さんも一人身でした。そうなると、今までは結婚して、同居をして、子どもが生まれて、両親の面倒を見て、という循環が続いてきたんですけれども、近年はそれが崩れ始めてきたんです。結婚しない人もいますし、それはそれでももちろんいいんですけれども、それによって自分にかかる負担がすごく増えてしまったんです。ですから、本人は心中をしようと思ったらしいんですけれども、自分は死ねなかったそうです。それこそこの息子さんは仕事も一生懸命で、近所の人にも評判よくて、優しく、献身的な介護をしていたわけですから、近所の人たちも「すごいね」という目線では見ておっても、影というものは分からないもんです。まさに「さるべき業縁のもよおせば、いかなるふるまいもすべし」という言葉が見事に当てはまってしまうんです。我々は、そういうことをしたくないと思っているんだけど、状況が整ってしまったり関係が変わってしまったり、自分の脳裏にそういうものがよぎってしまったりした瞬間に、そういう流れになってしまう可能性を常に秘めて生活しているんですよ。

間違いのない確かな人生。人間である我々はそんなこと言えませんよね。間違いのないような顔をして、確かな人間になったつもりで生きているだけで、やっぱり縁に触れれば、何が飛び出してくるか分からない。全てが「縁起(えんぎ)」ですからね。私もお婿さんで群馬から新潟へやってきました。まさか自分が新潟の地に来て、お坊さんをして、自分自身が住職になるなんて思ってもなかったです。けれども、これがご縁によって結ばれていって、そして今に至るということですよ。皆さんもそうでしょう。人生考えると、やっぱり縁ですよ。まさかこの地に嫁に来るなんて思ってもいなかったでしょう。でも、よい人に出

会って、ご縁をいただいて、そして今に至っているわけですね。私たちに確かな人生を与えてくれるというのが南無阿弥陀仏、どの様な間違い、迷いであろうとも、必ず浄土に生まれることができる人生、それを「正定聚(しょうじょうじゅ)の人生」といいます。「浄土に生まれることが正に定まる」ということです。「聚」というのは、「同じ思いの方々の集まり」という意味です。同じ場所に生まれることができる、その人生を阿弥陀様から我々は願われておるんです。どんなことがあろうとも、私がいるではないか、という阿弥陀如来のお支えですよ。その強い力に抱かれて生きる人生です。なかなか実感するということが難しいですけども、そういう思いを抱きながら生活するのは、先が分からん、暗闇しかないという人生を歩むのでは、明らかに違ってくると思うんですよ。

なかなか自分の人生をお任せするということが難しいですよ。だからこそ、ああでもないこうでもないという常に迷っているわけですよ。今のコロナもそうでしょう。早い頃はいろんな情報が出回って、常に我々は迷っています。しかし、先々のことはご縁だから分からないんですよ。かといって、自暴自棄になっては本末転倒です。分からない人生の中で、でも私は間違いなく浄土に生まれさせていただけるんだ、という思いを胸に歩む人生ですよ。それが正定聚の喜びですよ。まさに定まって、浄土に生まれることができる、という人生を歩ませてもらえる、そこに正定聚の人生の喜びというものがあります。

親鸞聖人は79歳の時に、お手紙の一節でこの様に書いています。「どんなことがあろうとも、私がいるではないか。全て私に任せて、自らの人生を精一杯生きなさい。ここに出てくる、「どんなことがあろうとも、私がいるではないか」というのは、阿弥陀様を意味しています。全て阿弥陀様に任せて、自らの人生を精一杯生きて下さい、ということです。どうですか皆さん、精一杯生きてますかね。精一杯とは常に全力疾走しなきゃいけないわけじゃないですよ。その日その日を大切にいただくというのが精一杯です。遊びに行く時は精一杯遊べばいいんです。眠っている時は精一杯寝ればいいんです。そういう人生を生きて下さい、という様に書かれております。

私のことを案じ続けて下さる如来の真実にお任せします、南無阿弥陀仏…、ということです。冒頭で言った通り、去年来た時は、今年の報恩講は皆マスクを外していると思ったんです。だけれども、そういうわけにいかなかったわけですよ。どんなことがあっても、あなたを見捨てない、そういう本願のはたらきによって、間違いなくお浄土に生まれさせていただく身になる、ということです。そのことを「正定聚の位につく」といいます。ですから、臨終を待たなくてもいい、亡くなってから浄土に生まれさせてくれと頼むこともないんです。じゃあどういうことかという、「現生(げんしょう)」「今」なんですよ。浄土に生まれることが「今」定まるということなんです。ですから、臨終の在り方を問題にしないんですよ。臨終の在り方を問題にするのは、生きている我々です。「このように亡くなっていきたい」というイメージが皆さんにもあるでしょう。

30、40年ぐらい前でしょうか。長生きということが大事だと言われていましたね。だけれども今はどうですかね。平均寿命が男性で81歳、女性が87歳ですかね。そうなるかどうかというと、90ぐらいまでは生きたい、でもそれ以上はあまり長生きもしたくないといえます。人間ってわがままでしょ。うちの周りの御門徒さんたちは皆そう言ってますよ。でも浄土が定まれば、そういうことは気にしないですよ。当然その一瞬一瞬は、ああうちよ

と頑張りたいな、とか、どうにかしたいな、という思いや願いはありますけれども、お任せするしかないんですよ。それをいつまでも嫌だ嫌だという様に考えながら生活する生き方と、一瞬そう思っても「ああお任せするしかないんだな」という生き方と、後者の方がいいですよ。そうすればより一日一日を大切にしますもんね。自分の臨終の時なんて、もしかしたらぼけてしまっているかも知れないし、もしかしたらほんの一瞬でコロッと逝ってしまうかも知れないですよ。信心が定まる時、往生が定まる。そういった心での臨終の迎え方というのはとても大切だと思いますし、親鸞聖人もそこをととても大切にされてきたのではないかと思います。

ですから、「大往生」という言葉を皆さん聞いたことがあるでしょう。大往生って何ですか。分からないでしょう。一般的には、90超えると大体大往生というようですね。ある時、お通夜の席でお齋をいただいている時に、「この家のばあちゃんは大往生だったね」というので、「大往生って何だね?」と聞いたら、「長寿だ」と答えられました。となると「中往生」もあるんですか。70代ぐらいで亡くなれば中往生なんですか。「小往生」もあるんですか。50歳より下で亡くなったら小往生なんですか。数でしか見なければそうですよ。でもそういう問題じゃないでしょう。我々は、全部取っ払って「往生」なんですよ。どんな形で亡くならうとも「往生」なんですよ。1歳で亡くなっても、100歳で亡くなっても「往生」なんです。我々人間というのは凡夫(ぼんぷ)ですから、真実のない我々だから、ついつい数で勘定しちゃうんですよ。だけれども、1つの「命」と考えれば「往生」なんですよ。そういう思いの生き方をするかどうかなんです。それが「正定聚」という人生なんじゃないかと思います。

特に浄土真宗の場合は、亡くなった方へ対する宗教ではないといわれていますけれども、亡くなった方を縁として仏教に携わる場合が多いと思うんですよ。うちの地域のお参りに来る方々も、なかなか親子で寺参りしてくれる人が少ないんですよ。ばあちゃんが亡くなったら、そうなれば俺の番だ、という感じで、お参りに来てくれるんですけども、亡くなったということを縁にするということが多いんですよ。それは当然ですよ。死を目の当たりにするわけですから。近親者の命というものを目の当たりにするから、そこで私たちは仏心というものが少しずつ芽生えて来るんですよ。20代や30代で、というのはなかなか稀ですよ。中にはおられますよ。普段お参りにはなかなか来ないけれども、大きな行事になった場合は出てくれる若い方もおられますけれどもね。しかし私たちは、日々の生活に追われてしまっています。だからこそ、浄土に生まれるということが定まってほしい。阿弥陀様にお任せします、という生活の中で、正定聚の人生を歩ませてもらう。「まさに定まって浄土に生まれる身となっていく」ということですよ。私が浄土に生まれさせてもらえるんだ、という願いの中に生活させてもらえるということが、すごく私は有り難いことだなあと感じています。

皆さんのご両親もそういう生き方をされてきたと思いますし、皆さんも実はもうされているのだと思います。だからこそ、この様にお寺に参る縁を大事にしているのではないかと思います。今日は報恩講。真宗門徒にとっては最も大切な集いでございます。しっかりと勤めて、明日からまた精一杯生活させていただければと思います。時間となりましたので、私の話はこれで終わらせていただきます。ありがとうございました。

(2021年10月27日録音。文章:当院)

# 伝筆活動紹介のページ



若坊守です。御朱印帳をご持参の方へ、山門掲示板の言葉を書かせていただいています。

養泉寺の掲示板は毎月変わるので、楽しみにお参り下さる方もいます。御朱印集めされている方、ぜひお参り下さい。

お参りの方の御朱印帳に法語を書けるようになるために習い始めたアート文字。心温まる書体と、送ると喜ばれることが楽しくて、講師の資格を取得しました。

書きたい言葉を自由に書いて、送って喜ばれた時のうれしさがくせになります！



伝筆は全て、若坊守が書いたり教えたりしています！  
気になった方はコンタクトお待ちしております→



## いのちの授業 レポート



11月20日(土)、看護師の栗原あつ子先生をお迎えして、親子で聞く「いのちの授業」を行いました。

親子で心臓の音を聴いてみたり、産まれた時、お母さんやお父さんはどの様に感じたのかを話してみたり。

大切なことを、大きくなっていく子どもに伝えることができ、本堂が温かい空気に包まれました。



生まれてきてくれて  
ありがとう！！

## 寺族の声－編集後記－

僕は週一回、地域のサッカー教室で子どもたちにサッカーを教えるコーチをしています。といっても実際は、一緒になってボールを追いかけて楽しんでいると言った方がいいかも知れませんが…（笑）

毎回出席を取るのですが、困っていることがあります。名前の漢字が読めない！！

でも何度も繰り返してやっと、硬くなってきた脳みそでも全員覚えることができました。でも今度は次の難関が…。それは、「ゆうと」「ゆいと」「ゆうた」とか、「かなた」「かなで」とか、似てる名前が多いこと！！練習中にとっさに呼びたいときにすぐに出て来ない（笑）！申し訳なさと歯痒さと。そんなこんなで練習終了、なんて日もあります。

法事などで勤めるお経ならば、どんなに漢字が続いていても読めるのに…。今の子どもたちの名前は漢字一文字であってもなかなか読めないものですね。まだまだ修行が足りませんねえ～！

コロナウイルスの影響で、サッカー教室も中止になることが多いです。子どもたちは動きたくてうずうずしてるでしょう。

コロナウイルスさん、早く落ち着いて下さい。子どもたちの名前を呼ぶ機会がないと、僕もどんどん忘れちゃいます！

ちなみに…、人様のお子さんの名前のことばかり言ってますが、僕の子どもたちの名前も人様から見ると、なかなか覚えられないらしいです（笑）

文章：当院（倉井光弥）

伝筆で、いろんな言葉、あなたも書いてみませんか？

様々なコースから技法を学び、自分で楽しめるようになります！！



LINE 友だち追加



こちらからいろいろとやり取りもできますので、どうぞお気軽に連絡下さい！

ヨガ教室開催中！楽しくやっています☆

毎月第2・4月曜日  
13：15～、1時間程度

詳しくは大矢ひとみ先生まで！

Tel 090-2980-6293

Web <http://sonomamanohito.blogspot.jp>

昨年6月に脳梗塞を発症した住職ですが、今は退院し、自宅での生活となっています。週1回、施設ヘリハビリに通い、できる範囲で法務にも出ています。

お参りに来て下さる皆さんの存在が励みです。ぜひ顔を見に来て下さい。

全ての連絡先、問合せ、疑問や質問、ご意見ご感想はこちらまで！！

電話 0258-75-2210  
ファックス 0258-75-2210  
ホームページ <https://yosenji-teradomari.jimdofree.com/>  
メール [yosenji1594@gmail.com](mailto:yosenji1594@gmail.com)  
郵便 〒940-2502 新潟県長岡市寺泊一里塚3883

LINE 友だち追加



養泉寺 LINE

LINE 友だち追加



養泉寺 kids LINE



TERADOMARIYOUSENJI  
養泉寺 Instagram

# 養泉寺 行事カレンダー(3月~9月)

春彼岸会・永代経法要 (お中日)	3月21日(月祝)
	<時間> 午前10時半~正午 <志目安> 千円 <備考> お供物あり
法話会	5月28日(土)
	<時間> 午後1時半~3時 <会費> お賽銭 <備考> 茶話会あり(お時間のある方)
法話会 (講師:永寶晴香さん)	6月28日(火)
	<時間> 午後1時半~3時 <会費> お賽銭 <備考> 茶話会あり(お時間のある方)
法話会	7月28日(木)
	<時間> 午後1時半~3時 <会費> お賽銭 <備考> 茶話会あり(お時間のある方)
盆参・新盆会	8月1日(月) 8月7日(日)
	<時間> 午前10時半~正午 <志目安> 二千円 <備考> お齋あり(持ち帰り)
法話会	8月28日(日)
	<時間> 午後1時半~3時 <会費> お賽銭 <備考> 茶話会あり(お時間のある方)
秋彼岸会・永代経法要 (お中日)	9月23日(金祝)
	<時間> 午前10時半~正午 <志目安> 千円 <備考> お供物あり

<発行> 養泉寺出版 2022年2月28日